

文化財だより 第18号

osubseunseunseunseunseunseunseunse \mathfrak{t} (\mathfrak{t} sunseunseunseunseunseunseunseunseunseuns	an eeu
鳥屋神社奉納絵馬 "奥州石ノ巻図"が県指定に# 1	Serio Serio Serio
誌上文化財めぐり	and to the same
建築物緊急調査(1)6	torough to the
建築物緊急調査(2)11	STOTAL STOTAL
上品山寺跡の板碑について18	arejuster)
旧町名表示石柱設置事業23	alosouto.
"あれ?こんなところに文化財が"24	SALDIGUETO
и под при води води води води води води води вод	20000

石卷市教育委員会

▼鳥屋神社拝殿

巻市指定文化財として指定されました。 展示及び複製が作られ、昭和53年には石

鳥屋神社奉納絵馬 《州石ノ巻図》が県指定に!!

指定)、 城県指定有形文化財に指定されました。 されている絵馬「奥州石ノ巻図」が、宮 石巻市内では、牡鹿法印神楽 昭和63年11月29日、石巻市羽黒町一丁 鳥屋神社(宮司・櫻谷隆氏)に奉納 田代島の仁斗田貝塚 (昭和50年 (昭和46年 地に金、銀、

展を続け、また南部、一関各藩の北上川 指定)に次いで、三番目の県指定文化財 石巻は、川村孫兵衛の北上川大改修以 仙台藩の江戸廻米制の基地として発

> 江戸文化流入の玄関口として非常な賑い舟運の基地として、同時に東北地方への を見せました。 この絵馬は、その賑いの様子を、黒漆

優品の一つであるといえます。 したもので、「港町石巻」の肖像画とし また美術工芸品としても県内に数少ない てばかりでなく、舟運関係資料として、 縦八十六・三なが、横百三十五・五なの 朱を使い、蒔絵風に描き出

る二十数隻の千石船、湊や門脇の両岸に 河口から入港し、または停泊し、荷役す 画面の中央に北上川と中瀬が描き出され 石巻中町の

そのものです。この絵馬は、 けたり・・・』と松尾芭蕉の記した情景 立ち並ぶ米蔵群に町家の屋並が細かく描 絵画手法、工芸技術の価値が認められ、 ての詳細は知られていません。 作者である "長谷三吉衛門義一" につい られています。しかし、残念ながらこの 会津若松生れの蒔絵師・長谷三吉衛門義 八月十三日に奉納されたもので、作者は 総若者中によって文化二年(一八〇五) 人家地をあらそひてかまどの煙立ちつづ き出され、『数百の廻船入り江につどひ 一であることが、絵馬の裏書によって知 昭和50年に東北歴史資料館より、この



▲県指定文化財「奥州石ノ巻図」

【誌上文化財めぐり】

歩いてみませんか… ふるさとの文化財

です。今日は、駅から始まる誌上文化財 こんなところに!」、「こんなものが!」。 いるでしょう。 みなさんの知らない「文化財」があるの めぐりです。みなさんは、いくつ知って のちょっとしたところにも「へぇー、 石巻には、いろんな文化財があります。 まずは、石巻の顔ともいえる「石巻駅

▼仙石線石巻駅舎



からスタートです

①宮城電鉄駅跡 (JR仙石線石巻駅)

各市町村の政治経済・教育文化の進展 民営化され、現在に至っています。 石線」と改称、その後昭和62年4月に 請によって全線が国鉄に買収され「仙 が建設されたことにより、軍当局の要 賀城に軍需工場が、また矢本に飛行場 に関して多大な恩恵をもたらしました 以来「宮城電鉄」の名で親しまれ、沿線 昭和3年(一九二八)11月の全線開通 台―石巻間の電気鉄道(電車線)は、 名が、大正12年 (一九二三) 12月設立 した宮城電鉄㈱の敷設、経営による仙 山口県出身の実業家山本豊次ほか9 太平洋戦争中の昭和19年、沿線の多

②仙北軽便鉄道跡 (JR石巻線石巻駅)

[四] 巻 駅 松島海岸・仙台方面 地石銀のリば

に完成しました。この完成により、石 事が開始され、大正元年(一九一二) の各町村の努力で、仙北軽便鉄道の工 院議員荒井泰治氏と、小牛田―石巻間 ました。 巻発展の再スタートを見ることになり 明治4年(一九一一)、仙台の貴族

延長工事が完成しました。その後、昭 り、昭和14年(一九三九)女川までの 大正8年(一九一九)国有鉄道とな



▶石巻線石巻駅舎

ご存知のとおりです。 和62年に民営化されたのは、 皆さんも

行くと、左手に陶器店が見えてきました。 けて、生まれ変わったアイトピア通りを 事が知られています。この立町通りを抜 屋敷ニ被成下、右銘立町と相唱候様御下 四月の『石巻町裏畑中幷両脇町続の場所 う。③立町は、文化十五年(一八一八) 知之事』という下知状によって誕生した ここが丸寿美術館です。 駅前通りを立町通りへと左折しましょ

④丸寿美術館 (㈱観慶丸本店三階)

江戸時代、 石巻を出帆した千石船は、



▶寿福寺本堂

ます。 を安定させる為、 どの名品の数々は、船名をそのまま店 として持ち帰った古伊万里、古九谷な います。その頃から、家業の参考作品 わら、茶わん、皿、花瓶などを持ち帰 保の頃から江戸廻来にたずさわるかた に「観慶丸」があり、初代船主は、天 戸文化を代表する作品を積んで、石巻 江戸で米をおろすと、軽くなった船体 として散逸することなく保存されてい 名にしたこの店の三階に、丸寿美術館 への帰路につきます。その千石船の中 石巻最初の陶器店を開業したとい 船底に生活雑貨や江

りに、立派なお寺が建っています。山方面に右折してみましょう。つきあた口方のに右折してみましょう。つきあた

⑤海石山寿福寺

いた人々の墓や供養碑があります。また本堂北側の墓地には、鋳銭場で働絵柄の豊富さは他を圧倒しています。

5、またお寺が建っています。 寿福寺を出て、細い路地を右手に行く

⑥菩提山永巌寺

寛永十一年(一六三五)、松本但馬 ・ 株満は、信州松本から落ちのびてきた ・ 株祖の遺骨を八ッ沢(現石巻小学校背 ・ 後)松本山に改葬し、菩提庵を建立し ました。その後寛永十九年(一六四四) に仙台輪王寺の角外恕鱗和尚を講じて 開山し、四代の時に現在地に堂宇を建 立して菩提山永巌寺と改称したのです。 境内には天保飢饉供養碑があります。 また、不動堂の境内は、大正時代の米騒 動の集結場所でした。

山門を出ると目の前に大きな石碑が建



▶永巌寺本堂

東野杢右衛門の屋敷跡といわれています。 定職が建てられ、今でも市内数ヶ所に残 道標が建てられ、今でも市内数ヶ所に残 道標が建てられ、今でも市内数ヶ所に残 でいます。すぐ近くの®八ツ沢緑地公 のでいます。すぐ近くの®八ツ沢緑地公 園は、明治22年(一八八九)4月、石巻 園は、明治22年(一八八九)4月、石巻 園は、明治22年(一八八九)4月、石巻 園は、明治22年(一八八九)4月、石巻 園は、明治22年(一八八九)4月、石巻

⑨吉田松陰宿所跡 (立町一丁目)

十四日に江戸を出発した松陰は、翌五のため、嘉永四年(一八五一)十二月のため、嘉永四年(一八五一)十二月

年五月十六日に石巻に倒着しました。 年五月十六日に石巻に倒着しました。 松陰は、途中で別れて石巻に滞在中の 線友那珂通高を訪ねますが、通高は松陰と福島付近に出迎えに行き、すれ違陰と福島付近に出迎えに行き、すれ違陰と福島付近に出迎えに行き、すれ違いとなってしまいました。 松陰は、途中で別れて石巻に関着しました。

ここが通称御殿横丁です。 横切って裏通りへと歩いてみましょう。

⑩御殿横丁

この周辺に、伊勢国出身の豪商源左 この周辺に、伊勢国出身の豪商源左 御門が建設し、宝永・享保年間に仙台 帯に献納した、「御座之間」「御奉行 之間」など、23室に及ぶ広壮華麗な御 仮屋がありました。歴代藩主の、鹿狩りや、石巻巡行の際の宿所となったと つってす。江戸時代の絵図には、「御殿」と注記され、住民からも御殿と呼ばれていました。

路を入ってゆくと「千登里」の看板が目路を入ってゆくと「千登里」の看板が目

①「縮図」のおもかげ

小路を抜けて、真直ぐに住吉公園へと歩きましょう。車には十分気をつけて下歩きましょう。車には十分気をつけて下

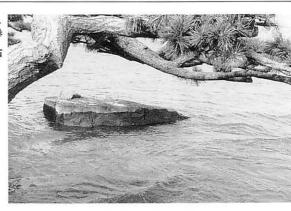
北上川を渡る風が頬を気持よく撫でていきます。公園でちょっとひと休み……いきます。公園でちょっとひと休み……

心大島神社

石巻地方十箇所の延喜式内社は、俗に「牡鹿十座」と呼ばれ、歴史のあるに「牡鹿十座」と呼ばれ、歴史のある由緒ある神社として、古くから信仰を由緒ある神社として、古くから信仰を由緒ある神社として、古くから信仰を由緒ある神社として、古くからにいます。



▶大島神社拝殿



石

③袖の渡り 場であったと言われています。古くか いう伝説が残されています。 ら歌枕として知られ、松尾芭蕉の「お 川が流れこみ、ここ大島神社前は渡し わりに小袖をちぎって船頭に与えたと くのほそ道」にも登場します。 北上川の開さく以前は、真野川や迫 源義経が平泉に下る途中、 舟賃の代

石

ますが、 端の川の中にある石で、これが「石巻」 地名になったと伝えられています。 石巻の地名由来については諸説あり 住吉公園の前に小島があり、その北 江戸時代の「石巻村風土記御

▲旧毛利邸

のと思われます。 が起源であるという説が一般化したも られており、江戸時代にはこの「巻石 用書出」等、 各種の古文書に取り上げ

左側に、 です。 公園を出て北へ真直ぐ進んで行きます。 さあ、 頑張って歩いてみましょう。住吉 疲れはとれましたか?あと少し 説明板のある家が見えてきまし

(5)志賀直哉生家跡

八八三)二月二〇日、ここに生まれま 知られる志賀直哉は、明治十六年(一 を創刊し、「暗夜行路」の作者として 武者小路実篤等と共に、雑誌「白樺

> くの広済寺には、早世した彼の兄直行 したが、彼の石巻での生活は二歳まで の墓があります。 で、その後上京してしまいました。近

手前に、古風な二階建の建物が見えてき ました。 もう少し歩いて行くと、住吉小学校の

⑥旧毛利邸

伝える貴重な建物です。 この建物は、幕末の名残りを現在に

を徹退させて石巻を救ったのが細谷直 衝突の危機を迎えていました。この時、 土方歳三等を中心とする旧幕府軍との 英と毛利理兵衛でした。 旧幕府軍に多量の物資を調達し、この地 矢本まで迫って来た官軍と、榎本武場、 明治元年(一八六七)十月、 石巻は

風格を備えています。 二階が平書院造で、各所に凝った造り が見られ、当時の有力者にふさわしい 「御石改横目」の家柄で、この建物は 毛利氏は、仙台藩米蔵を管理する、

柱 切りつけた刀痕であると言われている の傷が残っています。 また、二階には土方歳三が口論の際

録に残っています。 には、その数が十八棟にも及んだ事が記 用倉庫が建設され、宝暦三年(一七五三) 跡で、正保二年(一六四五)に江戸廻米 度住吉公園まで引き返し、今度は千石 そろそろ駅の方に戻りましょう。もう すぐ隣の小学校の周辺は①仙台藩米蔵

> 旧町名「新田町」という所です。元禄二 町へと足を運んでみます。右手に大きな 途中石巻を訪れた松尾芭蕉は、新田町の 年(一六八九)五月、「おくのほそ道」の ホテルが見えてきました。この周辺は® 「四兵へ」宅に一泊しました。その場所

場跡に出ます。 更に真直ぐ進んで行くと、 の周辺であろうと考えられています。 は具体的には判りませんが、おおかたこ

仙台藩鋳銭

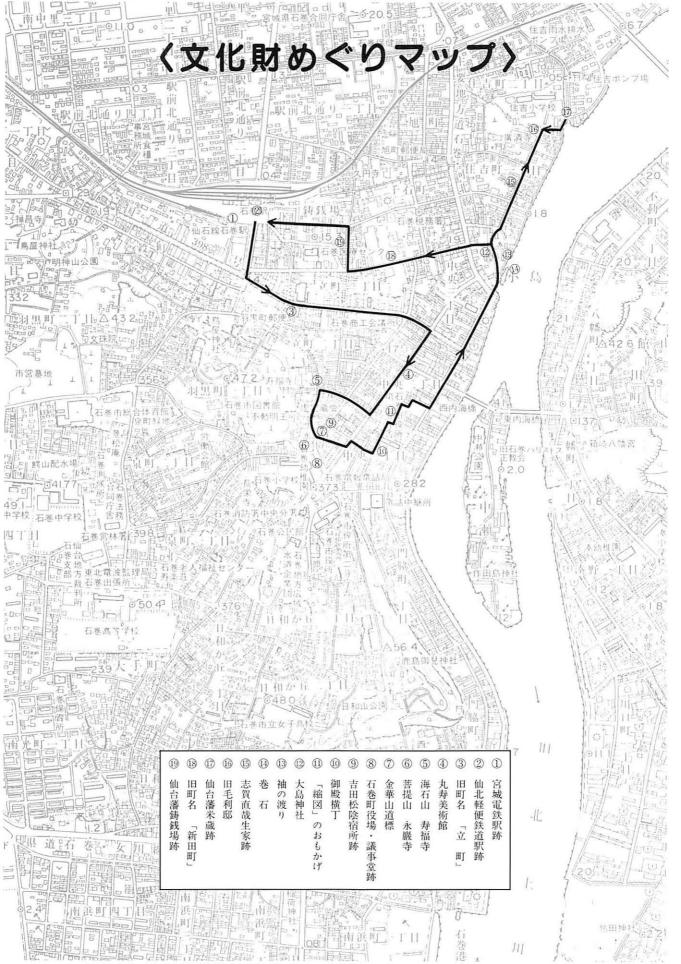
⑨仙台藩鋳銭座跡

の入口付近にあったものと思われます。 常な活況を呈したと言われています。 百四十年間断続的に行われました。 で明治元年(一八六八)の廃止まで、 操業を開始し、幾度かの中断をはさん 鋳造を許可されました。翌々十三年に 幕府から領内産出銅のみによる貨幣の これにより藩財政は潤い、石巻は非 また、現在ある稲荷神社は鋳銭場内 享保十一年(一七二六)、 仙台藩は

考えております。 後も、何らかの形で紹介して行きたいと だまだ隠れた文化財が沢山あります。 いかがでしたでしょうか。市内には、ま 近づきました。都合9分程の行程ですが よ今日の「誌上文化財めぐり」も終りに このまま駅前へと歩いて行くと、いよい

本日はお疲れさまでした・・・

案内役 石卷市教育委員会)



建築物緊急調査(1)

1 調査に至る経過

査することとなった。 北大学教授坂田 は、さっそく調査者の選定にあたり、東 調査したい旨の連絡があった。市教委で 山門の改修にあたりその文化財的価値を 昭和62年11月、 泉氏に協力を求めて調 伊原津の法山寺より、

山寺総代の方々の特別の取り計らいによ 掲載するものである。 以下はその報告であり、法山寺及び法

調査実施要項

調査主体者 調查参加者 調查担当者 調查期間 調査対象 東北大学文部技官 東北大学教授 坂田 宗教法人 伊原山法山寺 昭和62年12月17日~18日 石卷市湊字鹿麦山 法山寺山門及び本堂内陣 泉

東北大学大学院生 正

田村 渡辺 裕生

米倉

正博

東北大学学生 社会教育課文化係

3 調 査の概要

るが、沼津にあった天台宗妙法寺を当地 移築したものと言い伝えられている。 本調査は、 法山寺は、その縁起、創立年不明であ 山門改修に伴ってその文化

> 調査を行ったものである。 を残していることが判明した為、 財的価値を明らかにすることを目的に行 n 同時に本堂のうち内陣部分が古式 緊急に

調査の結果

4

●山門

切妻造 桁行五・九七六年 梁間三・一三日 īE 棟木高五・五二八片 面三間 ストレート茸 側面二間 薬医門

柄穴などから、もと全面板壁と推定され 花頭窓に格子戸付き棚を設置。柱に残る 全て角柱で扉は無い。両脇間は板壁で

る

されている。 束である。組物には尾棰、支輪を備え、 ことであろう。 身舎部分の化粧屋根裏が吹寄せ棰になっ せる豪放さがある。軒先は一軒の繁種で 形式の上で地方色をよくあらわしている。 組物で丸桁を支持するために複雑化し、 木鼻は挙鼻、 に渦巻付の板蟇股、両脇の間のそれは簑 せ梁を支持する。正面中の間の中備は肩 ているのは、 梁で支持され、全体として城門を思わ 正面角柱上の冠木桁に二手先組物をの 小屋組は、男梁を含めた合計6本の太 屋根裏の見栄えを考えての 正画桁行の両端は、二手先 梁の正面先端は丸桁でかく

である。 切妻破風の拝懸魚は、

造営の時期であるが、形式から江戸中

鰭付きの蒿懸魚



4

▶法山寺山門

及び他所から移されてはいるが、 和七年(一七七〇)の「不許蕈酒入山門 銅板を巻いて保護し、屋根は茅葺からス をコンクリート基礎にのせ、その柱脚は のはげしさから修復が加えられた。柱元 その頃ではないかとも考えられる。 年(一七六五)の石仏のあることから、 期と推定される。 レート葺に改造されている。 この山門は、雨による屋根部分の腐食 山門の西南の石柱に明 明和一

●本堂内陣まわり建築装飾

本の来迎柱筋の上部が著しい。これは る。しかし、内陣まわりは古材を適宜 転用している。特に本堂内陣の後方、 資料が皆無に近いため考察は不可能であ 本堂は改築が繰り返され、その歴史は



古式を示していて虹梁、 ▶法山寺山門調査状況

頭貫、

台輪、

組

組物も古態を保ち、 期の作と推定した。 の果物の大きさなどから江戸初期から前 両脚、斗上の大きめの実肘木、 さがあって、古式を思わせるが、 がわかる。その下部の蟇股は充分に力強 こを修復する前に嵌めこまれていたこと 飛天の頭の部分をかくしているので、こ て、来迎柱上の組物の後補の肘木が、両 状態で、絵はかなり退色している。そし 顔は横向きの、右は瀟を吹き左は散華の 羽目の板に描かれ、それは飛天であるが 天人の絵は、極彩色で横長の枠組に竪 両脇の蟇股と天人の絵に見られる。 或は同時期かとも考 その他このあたりの その脚内 太目の



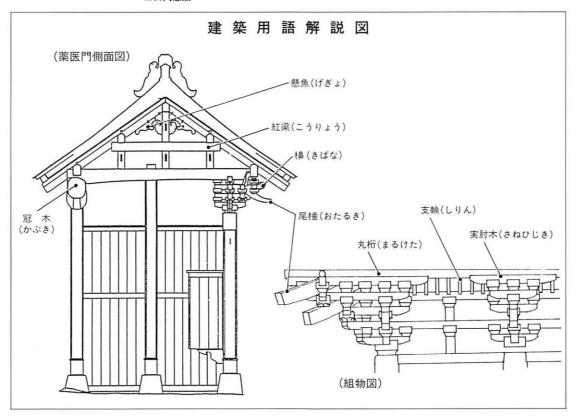
▲山門組物

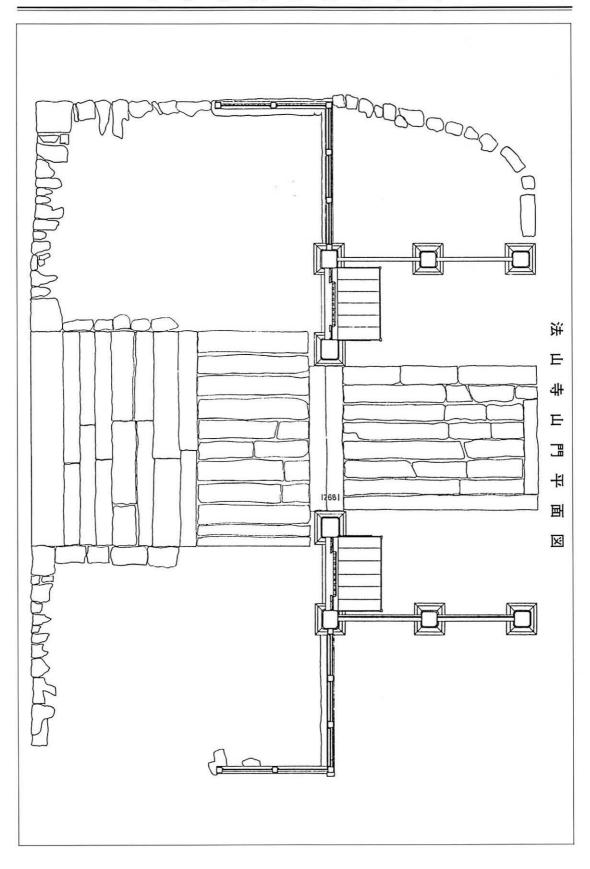


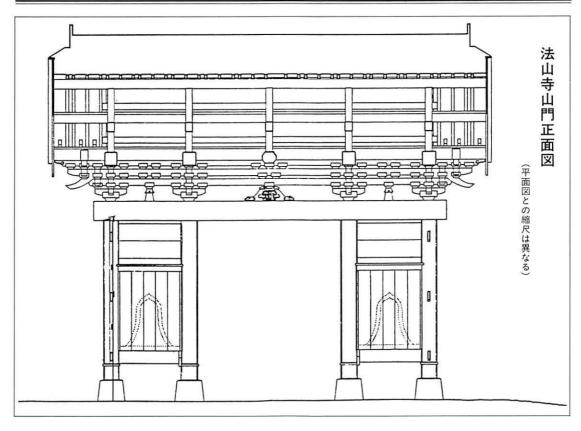
▲山門懸魚

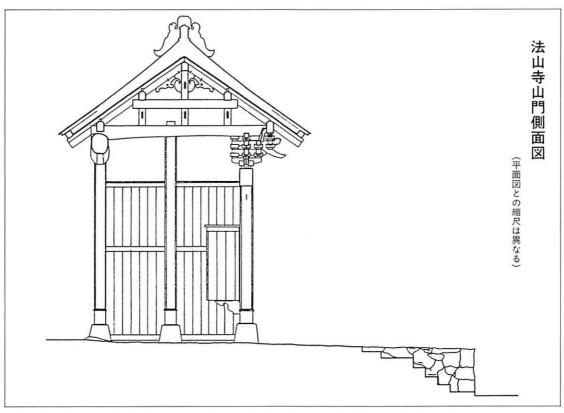


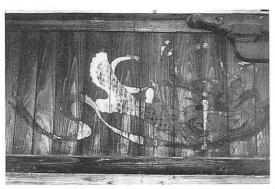
▲山門を西側より見る

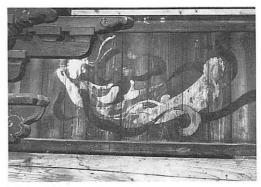








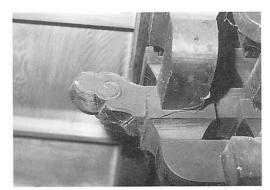




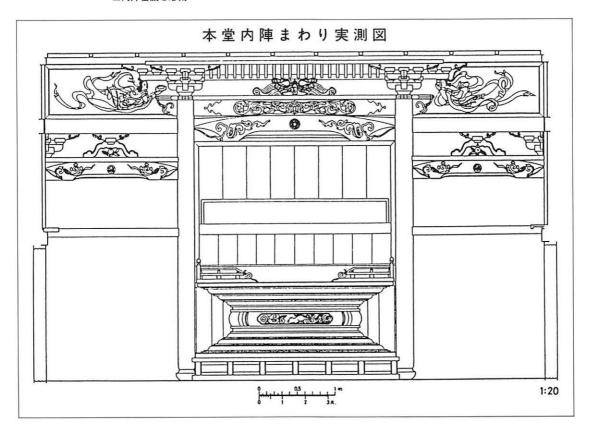
▲法山寺内陣上部の飛天図(左・右)▲



▲内陣蟇股と彫刻



▲内陣組物



建築物緊急調査 (2)

1 調査に至る経過

店より、 の土蔵の緊急調査を実施した。 なく解体時期の延長に協力を頂き、二棟 議を重ねた。しかし解体は免れず、止む な文化財であることから保存の方向で協 能性が強く、近世石巻の様子を知る貴重 代に南部藩の米蔵として使われていた可 支障となる為、解体したい旨の連絡があ る土蔵二棟を、所有地の有効活用に際し た。教育委員会は、この土蔵が江戸時 63年3月、カメイ株式会社石巻支 市内門脇町一丁目6番6号にあ

調査実施要項

調查担当者 調查参加者 調查主体者 調查期間 調查対象 東北大学文部技官 東北大学教授 坂田 石卷市教育委員会 昭和63年4月29日~30日 石卷市門脇町一丁目所在 カメイ㈱所有土蔵二棟

社会教育課文化係 東北大学大学院生及び学生 田中

調査協力者 カメイ株式会社石巻支店

3 調査の概要

おり、便宜上「北蔵」「南蔵」とし、そ ンスタンドの奥に二棟の土蔵が建って 石巻市門脇一丁目、 カメイ㈱の元ガソ

れぞれの調査を実施した。

調査の結果

●南蔵

建築面積 桁行二四・六片(八十一・二尺 梁間六・六片(二十一・八尺) 土蔵造平屋建 三・六間 十三·五間 五十坪 切麦造トタン葺

竣工 明治四十年六月二十二日 二戸前それぞれ下屋庇

▼南蔵近景

梁間六・三八九片(二十一尺) 土蔵造平屋建 切妻造トタン茸

桁行十五・九五八5(五十二・六尺) 三・五間

建築面積 三十・六坪 一戸前全面下屋庇 八・八間

側に凝灰岩を積み、桁行方向には副柱を 仕上げてある。同時に床を全面コンクリ 部分をセメント塗、壁体は全て漆喰塗で 加え、部分的には柱間を斜材で補強し腰 れる主な改造は、梁間方面の腰部分の外 造が加えられたと推定される。現在見ら ト叩きとなし、梁間外側の柱は床上に 造立年代は不明であるが、明治期に改 行は約九十世(約三尺)である。 室内に棚などが新設された。 また東麦側に続く小屋組は後世に加えら るが、主として間仕切にそれが見られる たトラス(構造骨組の一型式)であり 梁間が約九十五世(三・一四尺)、 この蔵の柱の太さは十五が角で、 桁

しばしば改造が加えられてい

れぞれの室の背面に高窓が設けてある。 土台上に建てられている。発見された棟 南側西寄には入口の痕跡がみられ、 なお、現在は壁体になっている東妻側と ない。この蔵は三室構成の三戸前で、そ を張るが、屋根の葺材の旧状は判然とし 組の地棟と軒桁に細目の錘を架け野地板 結され、室内に中柱はない。そして小屋 錘下の母屋によって二ヶ所の小屋組が連 この小屋組は製材された角材を用い、

札には明治四十年六月二十日とある。

▶北蔵近景

えられる換気孔が二戸前中間上部に設け 気孔)は各戸前上部に、また後補かと考 は約七十七世。(二・五尺)である。窓(換 は妻側が約七十九号(二・六尺)、桁行 の木材の土台を挿入しているなどである。 クリート基礎をまわし、十五な×十二な 建ち、他の三方の柱脚は切り取ってコン 柱の太さは十五だ角で、その柱の間隔

組まれた中央の束により地棟が支持され に張ってあり、 れと軒桁上に合掌を架ける折置組であっ 束で支持される天秤梁に地棟をのせ、そ 柱が無い。中間二ヶ所の小屋組は、三本の 小屋梁は自然木を使用し、室内には中 合掌には母屋はなく野地板を直に横 西妻側の小屋組は二段に



木材、軸組、小屋組の全てが古式である。は不明である。この土蔵は、南蔵に比べてことになる。また現状では屋根の原葺材いるので、野地板により連結されているている。室内の小屋組は相互に独立して

考察

5

『食貨誌』に『慶安2年(一六四九)、南部藩のそれも建っていた。

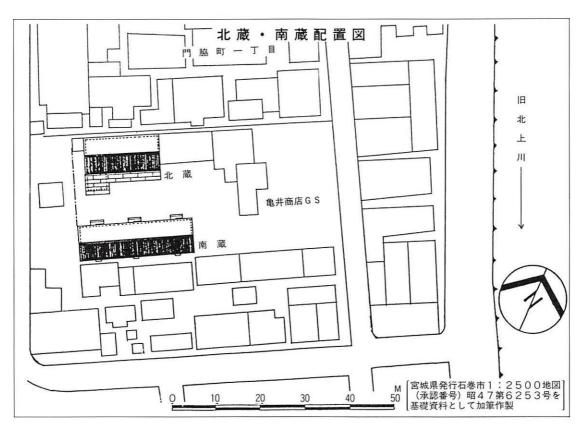
示され、 棟札(北上市立博物館蔵)には、 芽茸〟とあり、 三棟があり、 年中(一六八一~八四)には、 門・下田将監に命じて、 蔵)によれば中瀬の向いの河口近くから 後に書を賜りて、 日の日 一時に、 位置は、 米倉を建てむ事を請ふ。 図では盛岡御蔵とあって、 蔵とあって、 戸米価漸く貴し、九月九日桂七郎右衛 一丁目に一致する。 (一七四八) 二十間蔵、 には、 桁行十五間の上・下の古蔵と新蔵の 以て江戸へ運漕す。 仙台石の巻、 弘化年間 付のある「南部藩石巻廻米御定 古絵図 新御蔵四間 四番蔵三 番 関会所と米蔵が上門ノ脇に また石巻の南部藩の米蔵の 享保八年(一七二三)三月 米蔵の棟数も増加し、 蔵三 御蔵の間数 始て北上川を運ぶ精米 (一八四四~一八四七 (東北大学中央図書館 間 間 阿部治右衛門屋敷 これ等の事から、 仙台代官郡山豊 十一間 。とある。 仙台候是れを 寬延二年十四 間間 現在の門脇 五番蔵三 二番蔵三 梁間四間 一番蔵四 、柾葺屋、 寬延元 天和

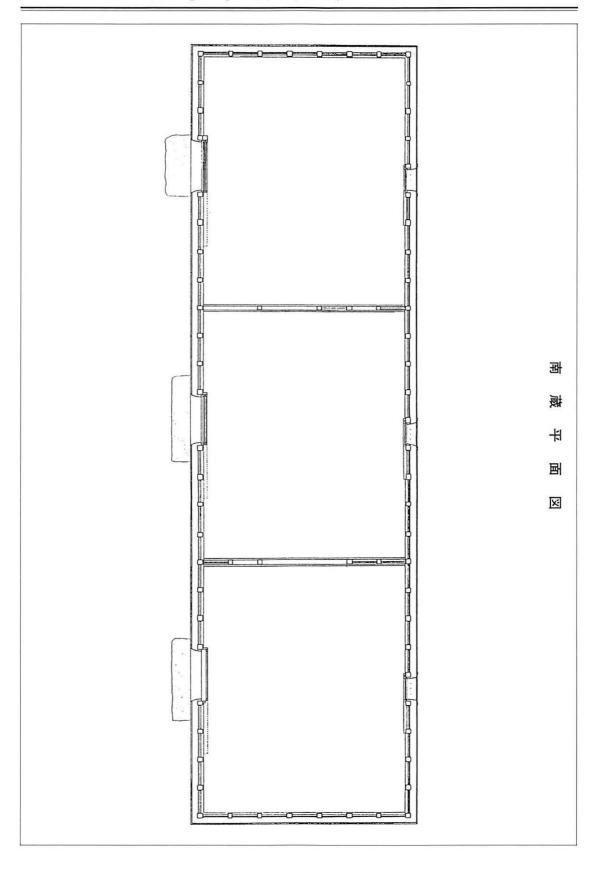
> がわかる。 (十八暦~二十五暦)柾葺であったこと間四間(七年)前後、桁行十間~十四間

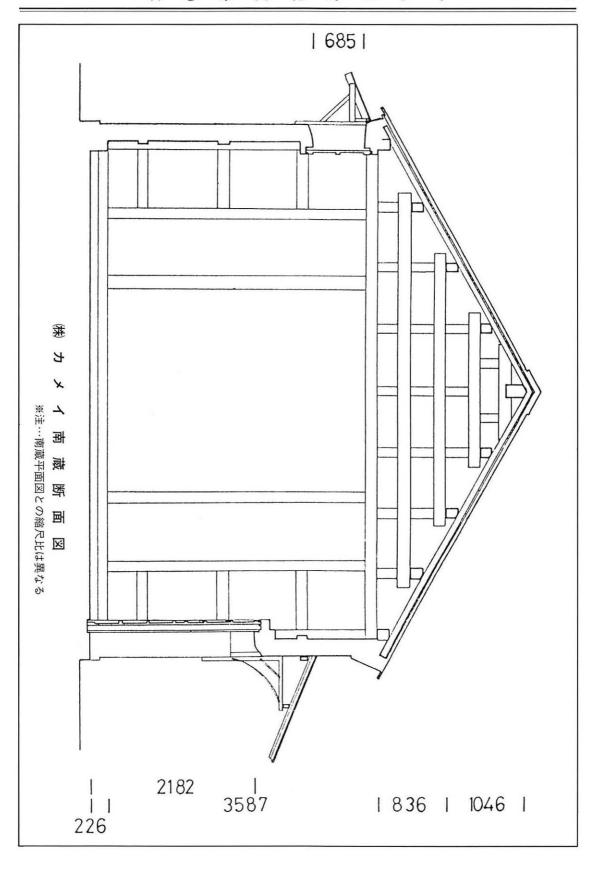
東京 なお、江戸時代の諸藩の米蔵は平屋建なお、江戸時代の諸藩の米蔵は平屋井 一戸前~八戸前で、一戸前が十二~三十六 一戸前~八戸前で、一戸前が十二~三十六 で、これを大きく外れないことから古 で、これを大きく外れないことから古 で、これを大きく外れないことから古 で、江戸末期

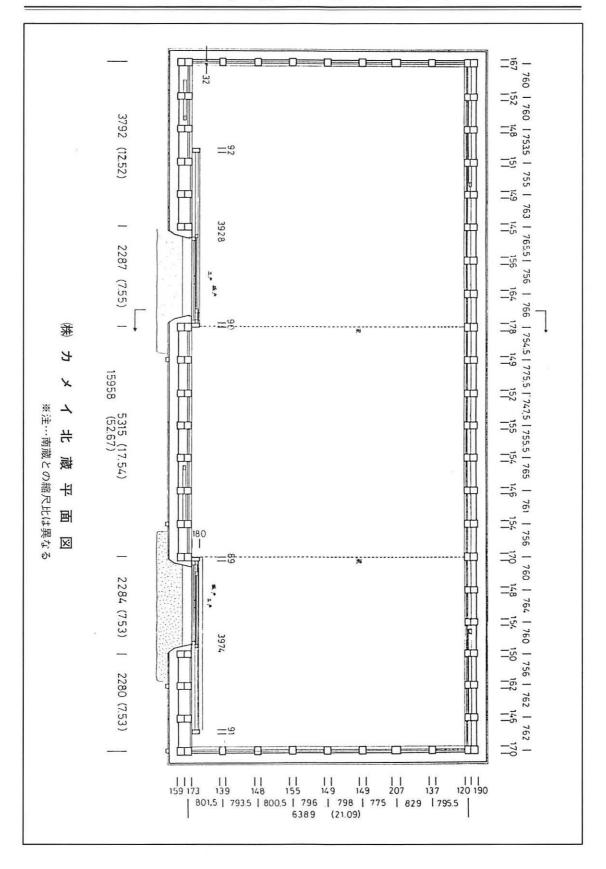


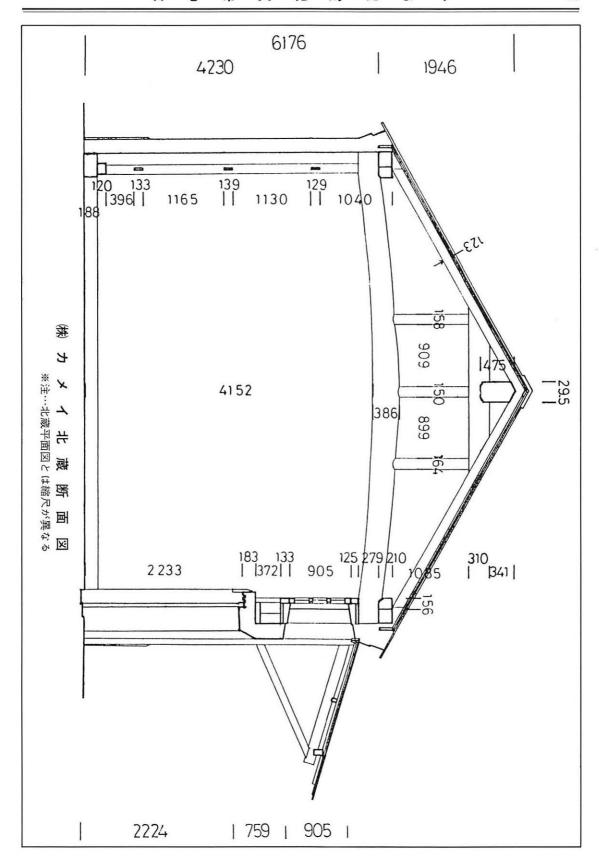
▼北蔵・南蔵全景



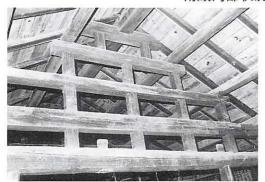


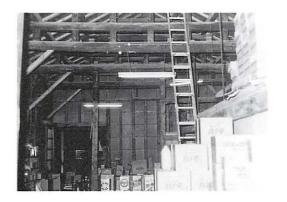






南蔵内部状況

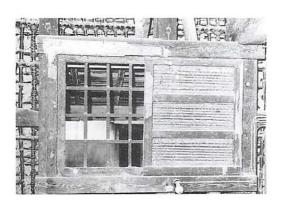






北蔵内部状況







昭 和 62 年度 板 碑調 查

品山寺跡の板碑について

てはあまり知られていなかった。 状況はどうであるのかということについ 山のどのあたりなのか、板碑のくわしい る。そして、宝来山上品寺があったとこ る久集比奈神社があることで知られてい する上品山は、山頂に牡鹿十座の一つであ ていた。しかし、近年まで、寺跡は上品 跡に板碑が造立されていることも知られ ろでもあり、江戸期から、この上品寺の 巻市高木と桃生郡河北町の境に位置

ようとするものである。 るために、寺跡と、板碑の状況を知らせ この報告は、以上のような疑問に答え

上品山の位置と寺跡

れている。さらに、「高木村安永風土記」 現在でも、高木地区の人々によって祀ら の一つである式内社久集比奈社があり、 に対峙し、 籠峯山に連なる。上品山頂には牡鹿十座 に属し、標高四六六・八片、北は追波川 (北上川) をへだてて、北上町の翁倉山 旧跡の項には、 上品山は牡鹿郡高木村(現石巻市高木) 東は硯上山、雄勝峠に、西は

名を知るのみであった。今回の板碑調査

で、この寺場跡なる場所を推定すること

一上品山寺跡

何年之頃禿寺二龍成退転候哉、 右ハ宝来山上品寺と申寺有之候処、

2

上品山の板碑

よって寺場跡と推測されるだけである。

板碑数基があることに

を確認することはできない。

るだけで、寺跡の面影を察知すべき遺構

が確認されたのである(位置図参照)。こ 線距離で約一〇〇以下の平場であること ができた。それは、上品山頂より南に直

地域は現在は雑木がまばらに生えてい

と、上品寺のことがみえる。上品山頂 共二相知不申 年月

> どまるうち、湊村(現石巻市湊)の曹洞 ただ、高木地区の人々は寺場跡として地 べきかは、明らかにされていなかった。 これら寺跡は上品山のどの位置に比定す 来山寺品寺にしろ上品山高徳寺にしろ、 曹洞宗上品山高徳寺の開山となったとす 宗梅溪寺四世大円文誉に入門。名を一翁 菩提を弔うため奥州へ下って上品山にと 元年(一二六〇一六一)、平清盛の末流平 前九年、後三年の役当時に廃絶されたと 呂の開基と伝える天台宗高徳寺があり、 の寺院については、この他に坂上田村麻 る(宮城県の地名・平凡社)。しかし、宝 宗嶽と改めて梅溪寺五世となり、のちに 戦死。高直の嫡子高徳は仏門に入り、父の 重清の末裔平高直は太田道灌に仕えたが 資信および一族平重清がこの地にいたり する。この上品山高徳寺については文応

> > の記述がある。すなわち、「封内名蹟志」 上品山の板碑については江戸期からそ

みであり、稲井町史、古碑の部には とあり、近代に入ってからの史料として 文永十年、 と記されている。また観跡聞老志には「浄 は「文永十年酸十月二十七日」の一基の の宮城県史、金石篇の部、牡鹿郡の項に **峯寺、在高木村、山上傍有古石墳、** 高三尺余、文永十年酉十月廿七日上有 神、熊野三所権限也上、傍二古石墳有 净峯権限、高木村二有、 一基弘安九年」 郷説ニ云、祭

• 文永十曆辛西十月二十七日 奉造立熊野宮一字、且股国秀、 大坂也刀生

• 弘安九年九月

と記すのみで、上品山の板碑についての 全容は知るべくもなかった。 高三尺、巾一尺八寸、 妙貞、心用、用心三禅尼の碑あり 外無記号

> 認することはできなかった。 史にも記述されている文永十年の碑は確 登場し、比較的新しい宮城県史、稲井町 しかし、この8基の中には古い文献にも のは8基であり、図に示した通りである。 今回の調査では、板碑と推測されるも

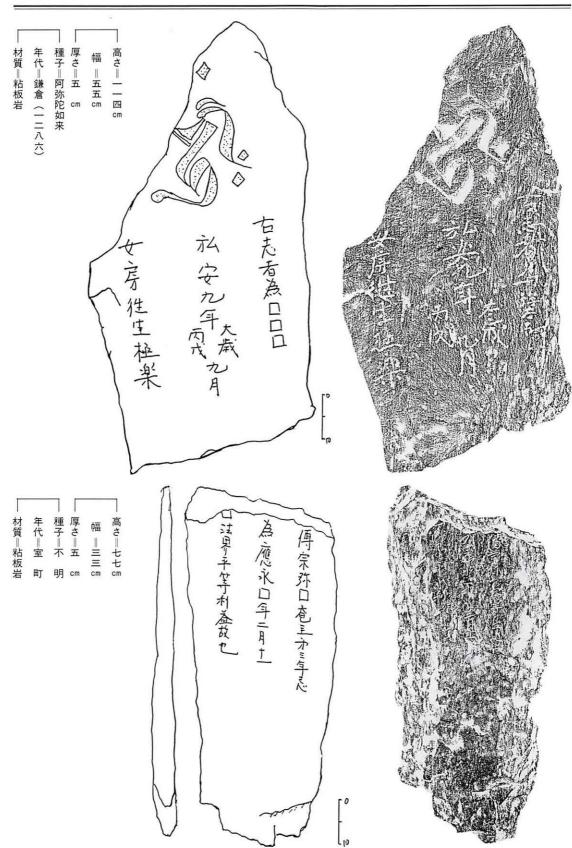
とができると思う。 うなことが今後の課題として指摘するこ をすることができたのであるが、次のよ 上品山の板碑については、一応の確認

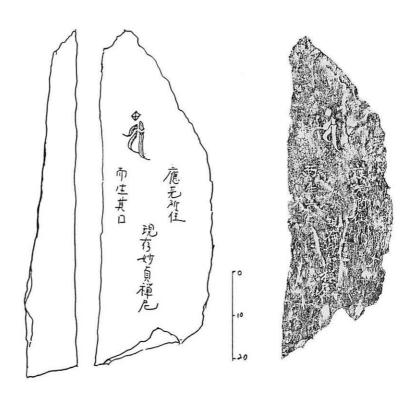
②文永十年碑の再確認 ①宝来山上品寺と上品山高徳寺とのか かわり。両寺はまったく別寺院なの か。あるいは同じ寺院であるのか。

③現在、 本当に寺場跡なのかどうか。 板碑の存在しているところが

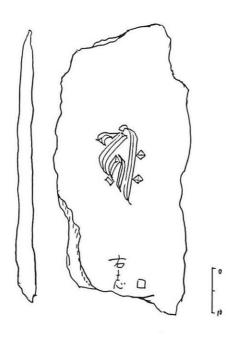
とは困難かもしれないが、 では今後の調査活動によって十分明らか にすることができるのではなかろうか。 ①については文献の上から確定するこ 2

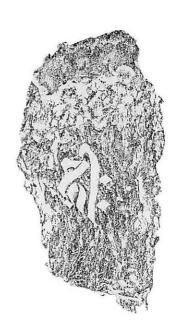


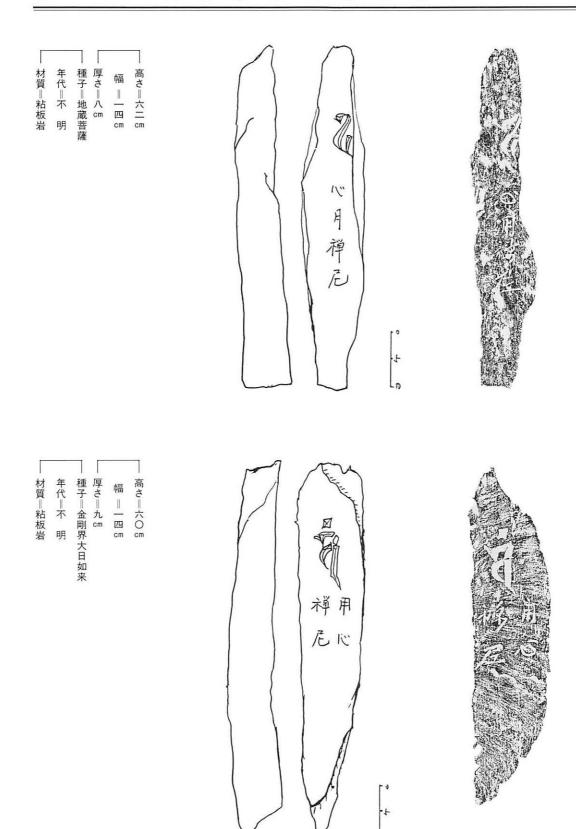




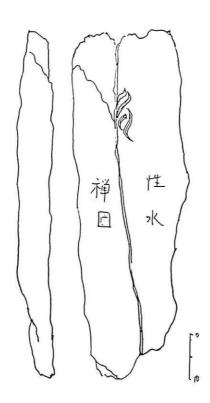
一 高さ=六○m一 厚さ=三二m年代=不 明年代=不 明

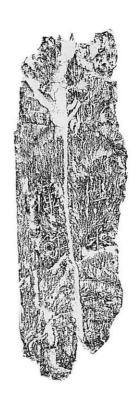






厚ち一八m 材質=粘板岩 高さ=七六の 年代=不 明 種子—地蔵菩薩 幅 二四cm

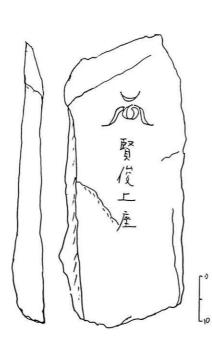




年代=不 種子—不 材質=粘板岩 厚さ一八m 幅 二四 cm 明 明

高さ=六四馬

一応板碑としておく。彫り方が他の板碑に共通するものがあるので、配号などから、板碑ではないかもしれないが、※賢俊上座の記し方、種子の位置にあたる上部の





旧町名表示石柱設置事業

1名も文化財#

由緒ある町名を後世に・・・

「本町」・・・「九軒町」・・・今はれを聞いただけでその町の形成された様子や、その町の昔の状況を想い起こされるものが多く、それ自体がわたしたちのまち。の歴史を物語る文化財です。しかしこのような昔ながらの町名も、昭和かしこのような昔ながらの町名も、昭和かしこのような昔ながらの町名も、昭和かしことにより、合理化の名目のもとされたことにより、合理化の名目のもとに次々と姿を消してしまいました。石巻市も例外ではなく、昭和44年から住居表示の変更が行われました。

に面した一連の家々を一つの「町」としてとらえてきており、『向う三軒、両隣でとらえてきており、『向う三軒、両隣でとらえてきており、『向う三軒、両隣の高葉が示すとおりの町でした。といわれる一つの区画(ブロック)を単といわれる一つの区画(ブロック)を単といわれる一つの区画(ブロック)を単した表示方法です。

しかし、現在「旧町名」が見直され、各地で従来の町名を残したり、失われた各地で従来の町名を残したり、失われた5年度から「旧町名表示石柱設置事業」を実施しております。失われてしまったを実施しております。失われてしまったで表施しております。大われてしまった。

も皆さんのご協力をお願いいたします。協力によって実施されています。今後とこの事業は、地権者方々のご好意とご

昭和56年度設置》

『新田町』=千石町(石巻グランドホ

『湊本町』=湊町一(湊幼稚園前)『渡波本町』=渡波町三(内海笑方前

《昭和57年度設置》

『中町』=中央二(ダックシティ丸光『横町』=千石町(河北新報社前)

前

『九軒町』 || 門脇町二

(消防第三分

団

昭和58年度設置》

『面剣田』=清水町一(ニイヌマビル『立町』=立町一(仙台銀行前)

(昭和6年度設置)

『袋谷地』=水明南二(長林寺前)『後町』=門脇町二(西光寺前)

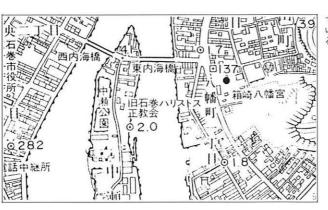
《昭和61年度設置》

《昭和62年度設置》 『坂下町』=中央一(永巌寺参道入口『坂下町』=中央一(旧中央郵便局前)

『御所入』=湊字御所入(御所入公園『本草園』=双葉町(双葉町公園内)

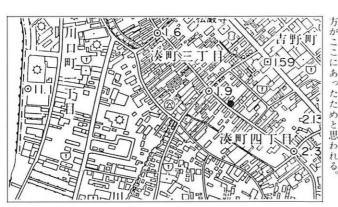
《昭和63年度設置》

田 町 八幡町一 (拝幣志神社境内)



東 町 湊町四(稲井嘉明氏宅前

元禄十一年(一六九八)の「牡鹿郡萬元禄十一年(一六九八)の「牡鹿郡萬御改書上」中に「東町 長さ壱町五拾間御改書上」中に「東町 長さ壱町五拾間御改書上」中に「東町 長さ壱町五拾間のは、「御足軽丁」と標記されているが、仙台藩奉行遠山帯刀良雄が、断絶しるが、仙台藩奉行遠山帯刀良雄が、断絶しるが、仙台藩奉行遠山帯刀良雄が、断絶しるが、仙台藩奉行遠山帯刀良雄が、断絶しるが、仙台藩奉行遠山帯刀良雄が、断絶しるが、仙台藩奉行遠山帯刀良雄が、断絶しる。



"あれ?

こんなところに文化財が!

員会では毎年文化財標柱を設置していま 近な所にあるものです。気付かれずに眠 たものをご覧になった方もいらっしゃる に設置しました。 と思います。文化財は、意外と私達の身 っている文化財の近くに、石巻市教育委 木製の白い標柱に「○○跡」と記され 今年も次の五ヶ所(建て替えを含む)

化財の保護・保存にご協力下さいますよ うお願いいたします。 次の時代の人々に伝えるため、これら文 私達の祖先の残した貴重な文化財を、

《昭和63年度設置》

久米幸太郎敵討の地

祝田浜において討ち果たしました。文化 四年(一八五七)十月九日、ついにここ 伸等の小説の素材として取り上げられて 太郎敵討事件は、その後菊池寛、長谷川 十四年の事件発生から四十一年目、史上 沢休右衛門を苦労の末に探しあて、安政 一番目に長い敵討ちで有名なこの久米幸 新発田藩士久米幸太郎は、父の仇敵滝



魔鬼山寺跡

鎮護を願い、聖観音像を祠って建てられ た寺と言い伝えられています。 際に、彼の倒した魔鬼女の供養と、奥州 坂上田村麻呂が、この地方を平定した

▼設置場所 = 湊字船石前山

三日防館跡

が確認できます。 端部にかけてその跡があり、約六○≧四 方の平場と、それを取り巻く段築や土塁 田んぼにつき出たこの丘の頂上から先

袖

0

渡

間闘い、ついに敵の侵入を防いだところ と言い伝えられています。 その昔合戦があった時に、ここで三日 ▼設置場所=高木字小沢

袖 渡 ŋ

▲袖の渡り

源義経が、藤原秀衡をたよって平泉へ

あります。古く平安の昔から歌枕の地と に自分の衣の片袖を与えたという伝説が 向かう途中にここを通り、 船賃の代わり

して知られ、松尾芭蕉もこの地を訪れて

「みちのくの袖のわたりのなみだ川 ▼設置場所―住吉町一(住吉公園内) こころのうちに流れてぞ住む」

京ヶ森館跡

地も残っています。 特に南側には門跡、通路跡と思われる凹 それぞれ大きな空堀が敵の侵入を防ぎ、 ては最も高い所にあります。北と南には 標高約二八〇以、市内にある館跡とし

に構えた館であると言い伝えられていま その昔、安倍貞任が源義家と戦った時

▼設置場所―沢田字京ヶ森

石巻市文化財だより(第18号)

平成元年 3 月25日 印刷 平成元年 3 月30日 発行

> 発行: 石 巻 市 教 育 委 員 会 石巻市日和が丘一丁目1番1号 電話 (0225) 95-1111 内線345

> > 印刷:株式会社 鈴木印刷所 石卷市蛇田新谷地前121 電話 (0225) 22-4101